



埼玉県立大学 認定看護師教育課程『緩和ケアコース』のご案内

■認定看護師とは

日本看護協会認定看護師認定審査に合格し、ある特定の看護分野において水準の高い看護実践のできる者のことをいいます。

認定審査を受験するためには、認定看護師の育成にふさわしい条件を備えた教育機関において、6ヶ月以上の教育課程を修了することが必要となります。

■開設コース

埼玉県立大学は認定看護師教育機関として『**緩和ケアコース**』を開設しています。

※「皮膚・排泄ケアコース」は平成22年度をもって閉講しました。

■教育目標

- 1 患者を全人的視点からの確にアセスメントができる。
- 2 緩和ケアを受ける患者の症状緩和を図る看護技術を提供できる。
- 3 緩和ケアを受ける患者の療養生活と家族の介護について指導・相談できる。
- 4 患者の権利を尊重し、倫理的配慮により患者と家族の意思決定を支援できる。
- 5 医療チームメンバーとして、専門的な役割を担うことができる。
- 6 緩和ケアに関する最新の知識と技術の習得、研鑽に努め、緩和ケア領域における役割モデルとなることができる。


■定員

定員30名

■担当教員からのメッセージ




筑後幸恵 准教授

みなさんと一緒に
『こころの輪 』
を広げましょう！



星野純子 講師

緩和ケア認定看護師
を目指すみなさんの
希望  を支えます。

■本学教育課程の特色

★ポートフォリオの活用

一般に、個人の活動記録をファイルしたものをポートフォリオといいます。本学では、自己の学習計画の立案や、学習内容の振り返り、担当教員との面接など、ポートフォリオを活用した教育を実践しています。

★充実した講師陣

埼玉県立大学の教員の他、全国から緩和ケアのスペシャリストを講師として呼び寄っています。

★フォローアップ研修の実施

毎年、修了生を対象としたフォローアップ研修を実施しています。この研修に参加すると、認定看護師資格更新の際、自己研鑽ポイントを取得できます。

■教育課程スケジュール

時期	内容
8月下旬	開講式
9月	講義・フォローアップ研修
10月～12月	講義・演習
1月～2月	臨地実習
3月下旬	修了式

■教育内容

分野	教科目	時間
共通科目	医療安全学:医療倫理、医療安全管理、看護管理、臨床薬理学:薬理作用、チーム医療論、相談、医療情報論、対人関係(選択)	123 (+15)
専門基礎科目	緩和ケア総論、がんのがんの集学的治療、症状マネジメント総論、喪失・悲嘆・死別、がんの医療サービスと社会的資源	82
専門科目	症状マネジメントと援助技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ 緩和ケアを受ける患者の心理社会的ニーズとケア、スピリチュアルケア、緩和ケアにおけるチームアプローチ、緩和ケアを受ける患者の家族・遺族ケア、臨死期のケア、緩和ケアにおける倫理的課題	201
演習及び実習	総合演習Ⅰ、総合演習Ⅱ、臨地実習	240
総時間数		646 (+15)

■埼玉県立大学修了生の認定審査合格状況

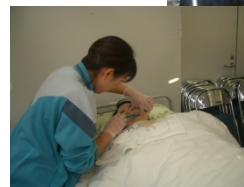
※合格者は次年度以降の合格者含む

年度	修了者	合格者	合格率
平成24年度	29名	29名	100.0%
平成25年度	29名	29名	100.0%
平成26年度	28名	27名	96.4%
平成27年度	30名	29名	96.6%
平成28年度	28名	26名	92.8%

★平成17年度～23年度 合格率100%

■埼玉県立大学修了生からのメッセージ

私は患者さんが辛くても時々ふと見せてくれる笑顔にいつも癒されてきました。患者さんがもっと笑顔になれたらいいなと思い埼玉県立大学の緩和ケアコースを受講しました。「緩和ケアはユーモアよ！」と先生が講義で話して下さったのを聴き、感動したことを覚えています。まさに私の学びたいこと、患者さんの笑顔を引き出すための学びはここにあると感じました。先生方の温かな見守りの中で、私たち8期生はお互いを認め合い、のびのびと学ぶことができたと感じています。きれいな学び舎と笑いのある温かいクラスでとても心地よかったです。受講生同士でお互いに送りあったメッセージカードとポートフォリオは大事な宝物です。(8期生)



■演習の様子

私は、緩和ケア領域の知識を習得したいと思い入学しました。緩和ケアの学習は、自分自身と向き合うことの連続で正直辛い時期もありました。しかし、そのような時には、筑後先生、星野先生が、私の持っている力を信じて見守り支えて下さいました。さらに、埼玉の教育の特色であるポートフォリオでは、自己の内面的成長を感じるとともに、仲間同士でプラスのメッセージを送りあうことで絆を深めることができました。同じ志をもち何があっても支えてくれる仲間と先生の存在は一生の宝物になりました。この8か月の中で緩和ケア領域での専門性を発揮できるような知識、技術を得るとともに、自身の内面的成長を遂げたことで、看護の視点が大きく変化したように思います。心からこの大学の教育課程で学ぶことができて良かったと思っています。(8期生)

緩和ケア認定看護師になるという長年の夢を抱いての入学でしたが、入学当初の私は「自信がない」が口癖で、これから始まる学校生活に不安でいっぱいでした。しかし、溢れる愛情とユーモアで私たち学生を指導し見守ってくれる先生方の講義に日々思いきり泣き、笑いながら、緩和ケアへの熱い思いを持って集った仲間と学ぶ毎日には本当に充実していました。先生は、患者さんの「その人らしさ」を大切にすると同じように私たちの「自分らしさ」を大切にすることも教えてくれました。「自信」とは自分を信じることです。今の私は、埼玉県立大学で緩和ケアとユーモアを学んだ自分は間違いない！という自信を得て、日々仲間と情報交換を続けながら、自施設での緩和ケアに取り組んでいます。(8期生)

看護基礎教育に携わり、臨床から離れていた私は、入学当初、コンプレックスの塊でした。しかし8か月間の学びの中で、同じ志を持つ仲間や私たちの思いをいつも受け止め成長へと導いて下さる先生方に支えられ、自分の強みを感じることができていきました。ポートフォリオはこの自分の強みの発見に大きく役立ちました。これからの私のミッションは、「緩和ケア」を自分の言葉で伝えていくこと、そして辛い状況にあってもそこに意味を見出そうとする患者様・ご家族の豊かな環境として寄り添い、希望を支え続けていくことだと感じています。この8か月間の学びと仲間たち・先生方とのかけがえのない出会いがこれからの自分を支えてくれると信じています。(8期生)

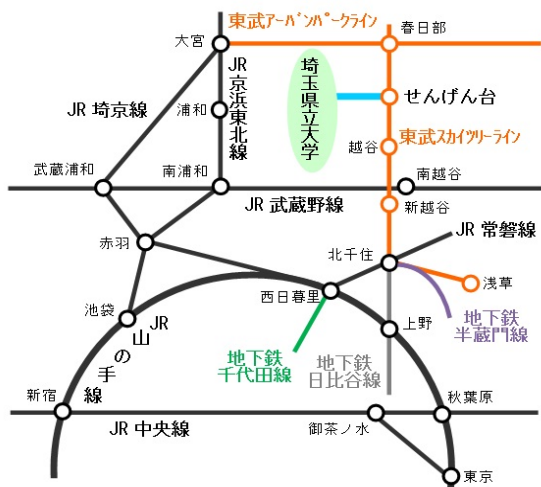
これまでの私は、患者や家族に対して看護の必要性を感じながらも、私の価値観による看護しかできていませんでした。認定看護師教育課程では、全人的苦痛という概念を学び、患者や家族が表出する訴えの奥には、その人であればこそ様々な思いが存在していること、その思いを尊重することの大切さを学びました。相手の思いを尊重する姿勢は、共に学ぶクラスの中にも生まれていました。先生や仲間と時間を共にする中で、自分を受け入れられることの嬉しさを感じました。そして、無意識のうちに、「男として弱い所はみせられない」という気持ちをもって関わっていた自分にも気づくことができました。この学びは一生の宝となりました。(8期生)

私は最年少であり、経験の少なさから不安に押しつぶされそうでした。しかし、同じ目標を共にする仲間と出会い、切磋琢磨しながら励まし合ってきました。また、先生方には「私らしく強みを生かす」ということを教えて頂き、勉強でわからないことはもちろん、日々の悩みや不安も親身に相談に乗っていただきました。講義は、その道のスペシャリストの方々にご教授頂き、看護観、死生観、その人らしさなどを学び、再確認することができました。さらに大学という環境は、図書の実、学習に適した環境、学費の面などが魅力的でした。この8か月間で自分自身を大切にしながらも大きく変わることができたと感じています。先生方、仲間たちとの出会いは一生の宝であり私の支えになっています。(8期生)



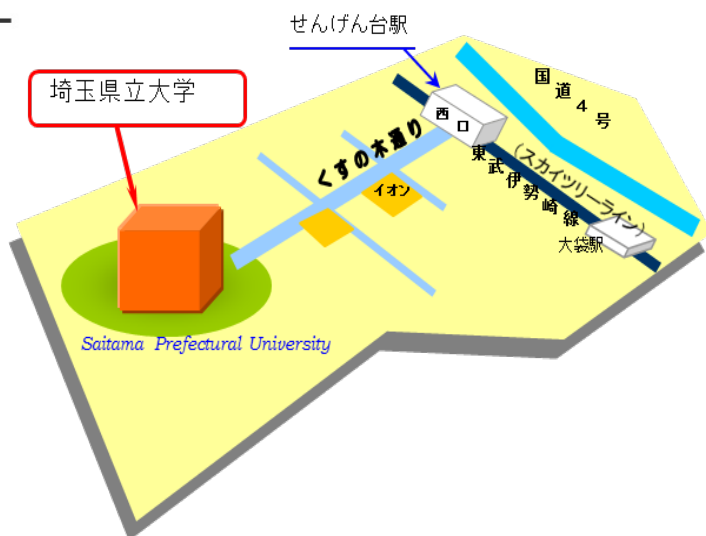
■7期生のみなさん

■埼玉県立大学へのアクセス



- 東武伊勢崎線「せんげん台駅」下車
(東武スカイツリーライン)

西口よりバス「埼玉県立大学」行き5分：片道180円
西口より徒歩約20分



■お問い合わせ

公立大学法人埼玉県立大学
地域産学連携センター

〒343-8540 越谷市三野宮820番地
電話: 048-973-4114(直通)

E-mail: edec@spu.ac.jp

<http://www.spu.ac.jp>

